

2015年度 第2四半期決算説明会

イオンフィナンシャルサービス

2015年度第2四半期 連結業容及び業績



業容	第1四半期		上期計	
	実績	期首比	実績	期首比
連結有効会員数	3,623万人	+ 56万人	3,671万人	+ 104万人
内、国内会員数	2,497万人	+ 33万人	2,525万人	+ 61万人
イオン銀行口座数	448万口座	+ 16万口座	462万口座	+ 30万口座
連結営業債権残高	3兆3,728億円	+ 1,304億円	3兆5,021億円	+ 2,597億円

連結業績	第1四半期		第2四半期		上期計		
	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	公表差
経常収益	856億円	117%	881億円	113%	1,738億円	115%	△12億円
経常費用	730億円	113%	634億円	114%	1,479億円	112%	△61億円
経常利益	125億円	152%	133億円	119%	259億円	133%	+49億円
親会社株主に帰属する四半期純利益	71億円	187%	69億円	97%	141億円	128%	+31億円
配当金	-		28円		+3円		

AEON Financial Service Co., Ltd.

2015年度第2四半期 決算説明会 2

セグメント別業績



(単位:億円)		第1四半期		第2四半期		上期計	
		実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比
クレジット事業	経常収益	372	112%	381	107%	754	109%
	経常利益	82	148%	84	105%	167	123%
	(経常利益率)	(22.3%)	(+5.4%)	(22.1%)	(△0.4%)	(22.2%)	(+2.4%)
フィービジネス	経常収益	117	111%	125	116%	242	114%
	経常利益	8	1055%	10	372%	19	522%
	(経常利益率)	(7.3%)	(+6.5%)	(8.5%)	(+5.8%)	(7.9%)	(+6.2%)
銀行事業	経常収益	116	145%	102	111%	218	127%
	経常利益	2	+18	△4	+3	△2	+22
	(経常利益率)	(1.9%)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
海外事業	経常収益	307	123%	316	114%	623	118%
	経常利益	57	108%	56	101%	113	104%
	(経常利益率)	(18.6%)	(△2.7%)	(18.0%)	(△2.2%)	(18.3%)	(△2.5%)
調整額	経常収益	△56	-	△44	-	△101	-
	経常利益	△24	-	△14	-	△39	-
連結合計	経常収益	856	117%	881	113%	1,738	115%
	経常利益	125	152%	133	119%	259	133%
	(経常利益率)	(14.7%)	(+3.3%)	(15.1%)	(+0.8%)	(14.9%)	(+2.0%)

AEON Financial Service Co., Ltd.

2015年度第2四半期 決算説明会 3

連結貸借対照表



連結	実績	期首比	連結	実績	期首比
現金預け金	3,934億円	△742億円	預金	1兆9,906億円	+275億円
貸出金	1兆5,157億円	+414億円	有利子負債 (流動化実施額)	7,493億円 (7,919億円)	△575億円 (+2,455億円)
内、国内貸出金 (流動化実施額)	1兆2,655億円 (5,734億円)	+437億円 (+1,815億円)	内、国内有利子負債	3,717億円	△641億円
キャッシング+小口ローン	4,471億円	+307億円	内、海外有利子負債	3,776億円	+66億円
内、海外貸出金	2,551億円	△22億円	利息返還損失引当金	29億円	△18億円
割賦売掛金 (流動化実施額)	1兆117億円 (2,124億円)	△264億円 (+654億円)	買掛金等	2,827億円	△234億円
支払承諾見返	1,827億円	△8億円	支払承諾	1,827億円	△8億円
貸倒引当金	△501億円	△8億円	負債合計	3兆2,083億円	△561億円
有価証券等	4,839億円	+90億円	純資産合計	3,291億円	+42億円
資産合計	3兆5,375億円	△519億円	負債及び純資産合計	3兆5,375億円	△519億円
貸出金利鞘	8.2%	(※) +0.2%	自己資本比率 (国内基準)	7.8%	△0.3%

(※貸出金利鞘は前期比)

AEON Financial Service Co., Ltd.

2015年度第2四半期 決算説明会 4

資金調達について



- 長期債権取扱高の好調な推移に加え、長期固定の資金調達を実施しやすい環境
- 預金及び債権流動化による資金調達により連結有利子負債は減少

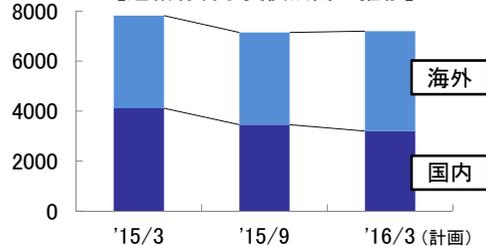
債権流動化実施の背景

- ・長期債権（住宅、オート、ソーラー、リフォーム）の取扱高が好調に推移
- ・定期預金の満期に対し、預金より低利で長期間で調達可能
- ・中国や資源・産油国を中心に経済成長が鈍化

債権流動化の考え方

- ・長期で固定の資金調達を行いやすい環境
- ・海外の景気低迷から、審査・債権管理の取り組みによる効果が遅れ

【連結有利子負債残高の推移】



・連結有利子負債（2015年9月時点）7,493億円（期初比△575億円）
 —国内：3,717億円（期初比△641億円）
 —海外：3,776億円（期初比+ 66億円）
 ↓
 預金及び債権流動化の実施により、期末の国内有利子負債も減少予定

2015年度 連結業績予想



	業績予想	
	業績	前期比
経常収益	3,800億円	116%
経常利益	610億円	115%
当期純利益	330億円	108%
1株当たり当期純利益	166円09銭	109%

	第2四半期末		期末		年間		配当性向	
	実績	前期比	予想	前期比	予想	前期比	予想	前期比
配当予想	28円	+3円	38円	+3円	66円	+6円	39.7%	+0.4%

下期重点実施事項

クレジット事業



- 会員数、稼働率、加盟店、審査回収、システム



クレジット事業

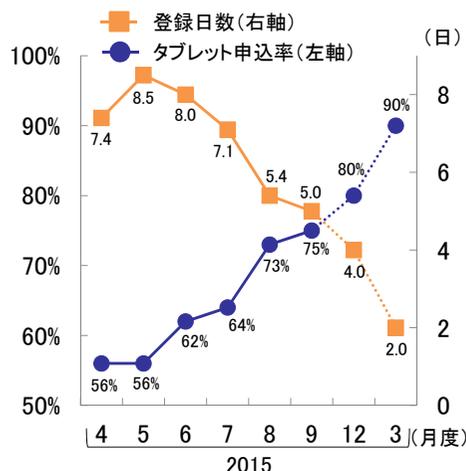


- タブレット端末による効率的な会員募集により、登録日数を短縮
- 会員募集を全件タブレットで行い、ペーパーレス化により、コストを削減
- 本人確認が可能なカメラ機能を導入し、店頭完結型募集を推進



タブレット端末募集の推進

【タブレットでの申込率及び登録日数の推移】



クレジット事業



- イオンカードのスマートフォンアプリを開発、実験導入
- 決済、クーポン配信、ポイントや利用状況の確認、サービス等をスマートフォンを通じて提供

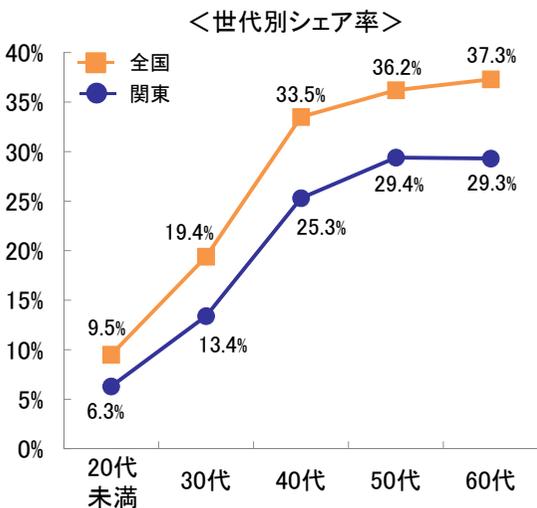


【当社オリジナルアプリの開発】

クレジット事業



- ディズニー募集の推進、デビットカードの機能強化による若年層の組織化
- 提携カードのG.Gカード化、ゴールド化による稼働率の維持



<イオンデビットカード>



<イオンJMBカードG.G>

クレジット事業



- イオングループ店舗の多様化に合わせた会員募集
- デジタルインフラを活用し、世帯シェアの低い首都圏で募集強化



デジタルインフラの活用

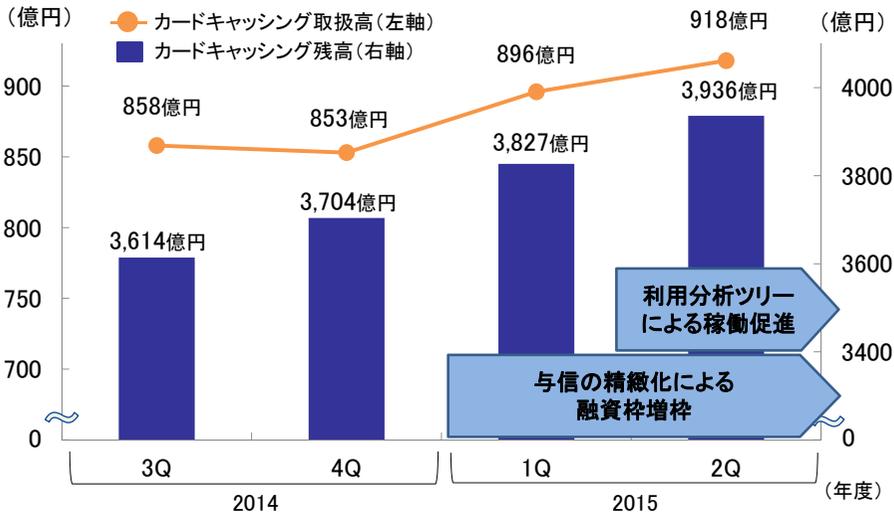
イオングループ企業	店舗数
USMH	483店舗
イオンマーケット	75店舗
まいばすけっと	602店舗
ダイエー・戦略小型店での募集強化	

※店舗数は2015年8月現在

クレジット事業



- 第1四半期にデータ分析を行い与信を精緻化。融資枠増枠施策を実施
- 第2四半期に利用特性ツリー分析による稼働促進策



クレジット事業 (個品割賦事業の推進)

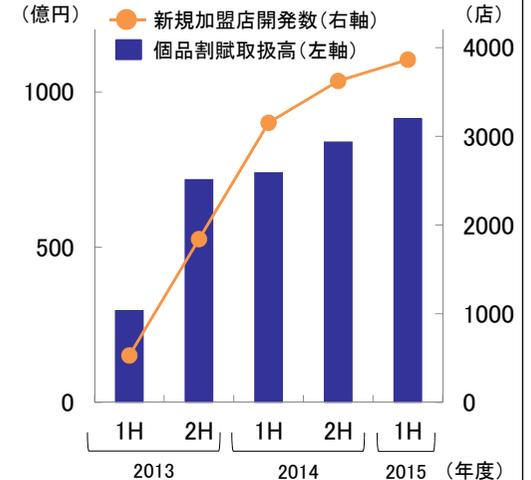


- 新規加盟店開発の強化、オートローンでのWeb即時審査導入により取扱高は順調に拡大
- 下期は加盟店開発の強化を継続するとともに、加盟店のメンテナンスを強化

【Web審査システム】



【個品割賦加盟店と取扱高推移】



フィービジネス (保険代理店業、住宅ローン事業)



- 保険代理店事業では、ネットで予約、受付。来店で申し込み頂くオムニチャネル化を推進
- フラット35に加え、イオン銀行住宅ローンの強化により住宅ローン取扱高が拡大

オムニチャネル化の推進

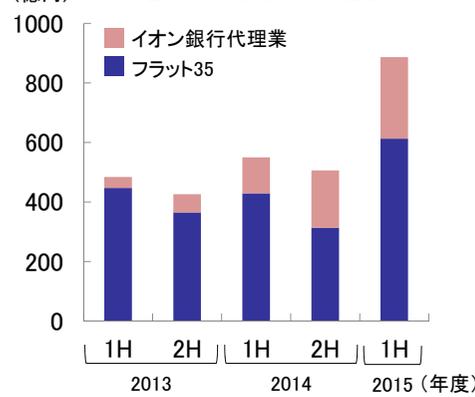


来店予約



イオン保険サービス
上期営業収益33億円(前期比111%)

【住宅ローン取扱高の推移】



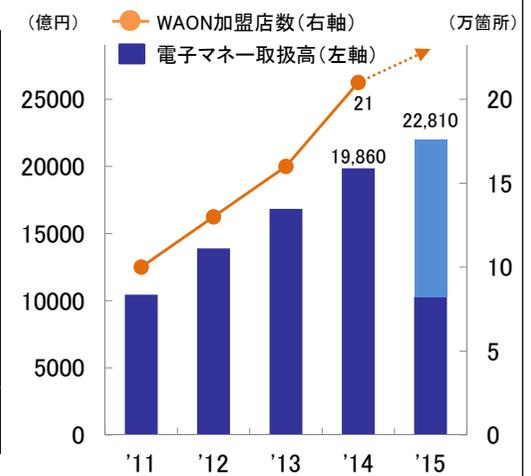
イオン住宅ローンサービス
上期営業収益27億円(前期比133%)

フィービジネス (電子マネーの取り組み強化)



- 12月15日よりローソン(12,220店舗)でのWAON利用を開始し、取扱高を拡大
- 新型NFC端末を活用したWAON外部加盟店の開発強化、利用場所は上期で22万5,000箇所

【電子マネー取扱高の推移】



ローソンでのWAON利用開始

銀行事業（インストアブランチ事業）



- デジタル化の取り組みによる、お客さまの利便性と効率性の向上
- 地域特性やお客さまごとのニーズに応じたサービスの提供

デジタルサイネージを使ったご案内



コンシェルジュシステム



取り組み内容	効果
<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化 －デジタルサイネージ －諸届のタブレット受付 	<ul style="list-style-type: none"> ・迅速なサービス提供 －受付、事務の時間短縮 ・効率的な告知 －印刷、差替えコスト削減
<ul style="list-style-type: none"> ・審査拠点の増設 －画一的な審査から、地域に適應した審査へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・審査スピードの改善 －処理件数の増加 ・審査精度の向上 －地域事情を把握
<ul style="list-style-type: none"> ・お客さま情報の活用 －属性情報と利用情報からニーズを把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品提案力向上 －分析データから推奨商品をリストアップ

銀行事業（人材育成の取り組み）



- 研修施設での教育効果により、上期住宅ローン実行額は前期比207%に拡大
- 住宅ローンに加え、窓口販売（投信、保険）についてもコンサルティング力を強化

【住宅ローン月間平均実行額（四半期別）】

実店舗同様の環境下での研修



銀行事業（ATM事業の展開）



- イオン銀行ATMは預金、振込などのサービスに加え、カードキャッシングやWAONチャージなどのサービスを提供するインフラ

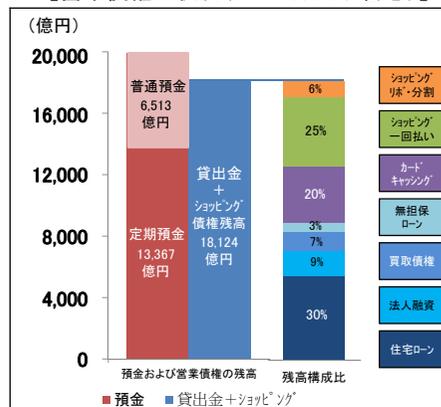
<h3>銀行サービス</h3> <ul style="list-style-type: none"> 入出金 振込 定期預金 明細照会 設定変更 その他 	<h3>WAON</h3>	<h3>EMV対応</h3> <p>INTERNATIONAL CARD /</p>
<h3>キャッシング</h3>	<h3>クーポン発行</h3> <p>ATMで発行可能なアイスコービー引換券</p>	<h3>サイネージ広告</h3> <p>イオンカードセレクト</p>

銀行事業（貸借対照表の状況）



- クレジットカード債権の拡大により預貸率は63%、カードショッピング債権を加えると91%
- 収益性の高い営業債権の拡大、預金コストの低下によるB/Sの効率化

【営業債権の状況（カードショッピング含む）】



【預貸金利ざやの状況】



・ショッピング1回払いは実質年率約18%
（加盟店手数料平均約1.5%×12ヶ月）

・キャッシング残高の拡大により、貸出金利回り上昇
・普通預金比率の拡大により、預金金利回り低下

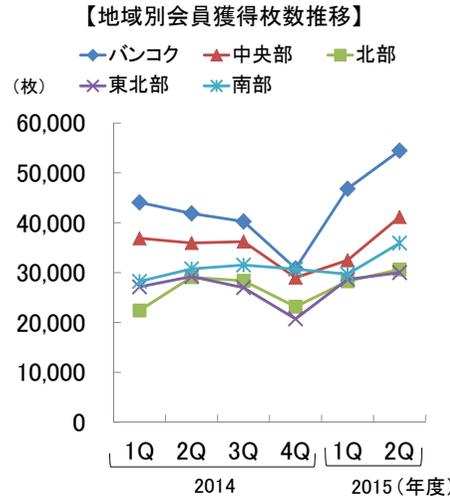
海外事業（タナシナップの上期取組み）



- オフィス・沿線の間所得者層獲得を目的とし、鉄道事業者グループとの提携カードを発行
- バンコク都での募集強化に加え、工場地帯から地方主要都市での募集ヘシフト



チットロム駅での会員募集



海外事業（タナシナップの営業債権の状況）



- 住宅ローン・パーソナルローンを中心に家計債務は増加、各金融機関は与信を厳格化
- 審査基準の見直し、債権管理部門の強化実施、直近の顧客の延滞発生率は改善

【タイの家計債務推移】

	2013年	2014年	2015年(6月末)
家計債務額	9.8兆バーツ	10.5兆バーツ	10.7兆バーツ
GDP比率	76%	80%	81%

【出所：タイ中央銀行】

【与信開始からの顧客経過年数(上期末時点)】

	2年以上	2年未満	1年未満
営業債権残高	550億バーツ	49億バーツ	21億バーツ
延滞債権残高	18億バーツ	2億バーツ	0.4億バーツ
延滞率	3.3%	4.1%	1.7%

海外事業（タナシナップの営業債権の状況）



- 利回りの改善および引当金繰入額の圧縮により、利益率は改善
- ローンからクレジットカードへの転換を推進

【商品比較(タナ単体)】

	クレジットカード		HP・目的ローン		パーソナルローン		合計	
	実績	前年差	実績	前年差	実績	前年差	実績	前年差
取扱高構成比	49.5%	+2.1%	21.8%	-4.5%	28.8%	+2.4%	100%	-
営業収益構成比	41.8%	+1.5%	18.0%	-4.8%	40.2%	+3.3%	100%	-
利回り	24.9%	+0.4%	23.7%	-0.46%	27.6%	+1.4%	25.7%	+0.7%
繰入額/債権残高(償却前)	5.3%	-2.1%	8.0%	-2.7%	10.3%	+1.6%	7.7%	-0.9%

海外事業（タイ：債権管理業務の強化）



- 新たな従業員評価制度を導入、3ヵ月毎の従業員評価を行い適正配置を実施
- 当月債権の分類強化による回収業務の効率化により
当月従業員を延滞債権および外部債権へ再配置

【バンコク事務センター】



【延滞度別委託債権残高】

	当月	延滞1	延滞2	延滞3以上 及び訴訟
債権残高 (百万バーツ)	54,800	1,310	800	12,900
件数 (万件)	321	7	5	99
管理スタッフ	1,160	420	280	390
1人当たり 担当件数(件)	2,760	170	160	-

海外事業（タイを中心とした事業展開）



- タイ国内で、カード事業・保険代理店事業・サービス事業を展開
- カンボジアでは専門銀行ライセンスを取得、クレジットカード事業を開始

	タイ	ベトナム	カンボジア	ミャンマー	ラオス
クレジット カード	○		○ ○専門銀行化		
個品割賦	○	○	○	○	○
パーソナル ローン	○		○	○	
保険代理業	○				
サービス業	○				
リース業	○				
経営資源	タイで育った人材の展開・ノウハウの共有				
ヒト・モノ 資金 システム	タイでの資金調達力の活用（投資） 共通モジュール				

タイの経営資源を活用し、
周辺国への展開を強化

（参考）セグメント別貸倒及び国内利息返還損失引当金の推移



■ 貸倒引当金残高（セグメント別）

	クレジット	ファイ	銀行	海外	連結
期首貸倒引当金残高	261億円	31億円	31億円	168億円	492億円
貸倒引当金繰入額	62億円	7億円	1億円	163億円	235億円
貸倒償却額 （移管債権等含む）	57億円	2億円	0億円	166億円	226億円
期末貸倒引当金残高	266億円	36億円	32億円	165億円	501億円

（国内子会社）イオン銀行：32億円、イオンプロダクトファイナンス：46億円、イオン住宅ローンサービス：13億円

■ 利息返還損失引当金残高

	2014年度上期	2015年度上期
期首利息返還引当金残高	30億円	48億円
利息返還損失引当金繰入額	25億円	0億円
利息返還額（キャッシュアウト・元本充当）	19億円	19億円
期末利息返還引当金残高	36億円	29億円

（参考）2015年度上期業績（香港、タイ、マレーシア）



■ イオンクレジットサービス(アジア)連結業績

	2014年度上期		2015年度上期	
	実績	前期比	実績	前期比
経常収益	83億円	116%	99億円	119%
経常利益	22億円	107%	23億円	104%
当期純利益	17億円	106%	18億円	105%

為替レート：1香港ドル
・2014年上期：13.17円
・2015年上期：15.66円

決算期
・2014年：2/21～8/20
・2015年：3/1～8/31

■ イオンタナシナップ(タイランド)連結業績

	2014年度上期		2015年度上期	
	実績	前期比	実績	前期比
経常収益	270億円	115%	316億円	117%
経常利益	49億円	98%	56億円	114%
当期純利益	39億円	98%	45億円	115%

為替レート：1バート
・2014年上期：3.15円
・2015年上期：3.63円

決算期
・2014年、2015年
：2/21～8/20

■ イオンクレジットサービス(マレーシア)業績

	2014年度上期		2015年度上期	
	実績	前期比	実績	前期比
経常収益	129億円	135%	149億円	115%
経常利益	43億円	124%	45億円	104%
当期純利益	32億円	124%	34億円	106%

為替レート：1リンギット
・2014年上期：31.60円
・2015年上期：32.43円

決算期
・2014年：2/21～8/20
・2015年：3/1～8/31

※各社発表資料より算出

（参考）2015年度業容計画（国内）



	2015年度上期		2015年度通期	
	実績	期首比	計画	期首比
有効会員数	2,525万人	+61万人	2,600万人	+136万人

	実績	前期比	計画	前期比
カードショッピング取扱高	1兆9,863億円	108.8%	4兆2,000億円	109.9%
電子マネー取扱高	1兆296億円	108.3%	2兆2,810億円	114.8%

	実績	期首比	計画	期首比
キャッシング残高	3,930億円	+225億円	4,000億円	+296億円
小口ローン残高	541億円	+82億円	800億円	+341億円
無担保ローン残高	4,471億円	+307億円	4,800億円	+637億円